

館報



11 月号

No. 835

令和7年
(2025年)

やまがた



うちは3代続けてムコ養子経営者です

上條 誠さん (中大池)

先々代が営んでいた酪農から、先代が現在の小ネギ農家に転身したそうです。上條誠さんは6年前から農業に携わり、今年1月に義父である先代から経営移譲されました。

「とにかく品質の良い小ネギを作ることを心がけています。昨年までは一従業員として働いていましたが、今はパートさんたちの生活を守るためにも、より丁寧に小ネギ栽培と向き合っています」

従事者を多く雇う難しい小ネギ農家の新後継者として奮闘している上條さん。その人柄の温かさはパートの皆さんにも伝わっていて、チーム一丸で農業に取り組んでいる様子がうかがえました。

(10月25日 上條さんの小ネギ畑にて)

働姿

告知板

公民館講座のお知らせ

12月も魅力的な公民館講座がいっぱい！
気軽にご参加ください。

募集中の講座

パーキンソン病を学ぶ

※村内外問わずどなたでも参加可能です。

〈内容〉パーキンソン病について理解を深める講座です。

〈日時〉12月5日(金)14:00～16:00頃

〈場所〉トレセン「語らいの部屋」

〈申込み〉必要

〈協力〉全国パーキンソン病友の会長野県支部

多世代交流講座

〈内容〉今年もやります！年末の多世代交流講座。村民ならどなたでも参加可能です。老若男女みんなで1日交流しましょう。

〈日時〉12月25日(木)

9:30～12:00 おやきと豚汁づくり

12:00～13:00 実食

13:00～16:00 トレセン体育館で遊ぼう

〈場所〉トレセン「調理室・大ホール・体育館」

〈申込み〉必要(人数制限があります)

各講座の詳細は
ホームページを
ご覧ください。



【お問い合わせ・お申し込み】

山形村教育委員会 ☎0263-98-3155

活き生き塾では料理やスポーツ、作品作りなどさまざまな活動をしています。新しい仲間も随時募集しています。

活き生き塾

11月6日(木)、活き生き塾のバスハイクで黒姫高原へ行きました。当日は良い天気にも恵まれ、バスの車窓から素晴らしい紅葉を眺めながら「モモ」を代表作とするミヒヤエル・エンデの作品が展示されている黒姫童話館へ行きました。世界や日本で作られた童話に触れ、昔読んだ童話を題材に懐かしんだり楽しんだりしました。大自然の中で、文化と芸術に触れ、感性を磨く一日となりました。



す。おむね60歳以上で興味のある方はぜひ参加してみてはいかがでしょうか。

育成会チャレンジ広場

10月19日(日)、鷹の窪自然公園にて山形村育成会主催のチャレンジ広場が開催されました。

50名を超える小学生が、前中は飯盒炊爨やヤマメのつかみ取りを、午後はクイズ探しリレーを楽しみました。日頃から釣りに親しんでいるという6年生の桐原菜祐さん



飯盒炊爨



JAまつり

11月8日(土)、JA松本ハイランド山形支所でJAまつりが開催されました。彌磨太鼓・山形小学校金管バンド・THE☆S☆P☆B☆B☆B☆の演奏やキッチンカー、販売所がありました。たくさんの方で賑わっていました。



ヤマメつかみ取り

ん(上竹田)は「大人の手を借りず弟2人と飯盒で炊いたご飯は、自分でさばいたヤマメの塩焼きの次においしかったです」と話していました。

山すそ

今年10月中旬頃まで暑さが続き、季節感を忘れる気候が続いた。近年春と秋が減り、将来四季が二季になるんじゃないかと。声も聞くほどだ。そんな中でもゆつくり秋は訪れ、実りの秋を迎えた。特に米を心待ちにしていた人も多かったのではないだろうか。今年も需給変動等、種々の要因で米不足に陥り「令和の米騒動」が起きた。備蓄米の登場で「古米」「古古米」「古古古米」：なんて言葉も流行り、「古古古米」は流行語にも選出された。新米の季節になり、騒動が過去の出来事かのようにスーパーに陳列されている。日本にとって米があることは当たり前のように当たり前ではなくなり、人手と太陽と雨と：全て揃う奇跡なのだと思ふ。▼我が家でも新米を食べ始めた。炊飯器を開けた瞬間にふわっと湯気が広がる。一口食べるとほのかな甘みが広がり、元気にしてくれるパワーを感じる。米が食べられる有り難さを噛みしめ今日も1杯、2杯とおかわりする。長芋の季節もやってきた。更に食欲が増すことだろう。

小坂分館 あったか広場

11月8日(土)、ミラフード館2階ホールミラで「あったか広場小坂SHOW-TIME」が5年振りに開催され約100名が参加しました。

1部は大道芸人ぼびーさん、2部はB'z稲葉さんモノマネの中村素也さんのステージがあり盛り上がりました。

最後に抽選会があり、ぼびーさん・中村素也さんのサイン色紙や、提供いただいたワインやシクラメン・長芋などが当たりました。

参加者の住吉由紀子さんは「めっちゃ楽しかったです。こういうイベントをやっていただけ的是がたい」と話してくれました。



上竹田分館 ウォーキングイベント

11月8日(土)、分館主催秋行事「健康ウォーキング」が開催され、ウォーキングサポーター笠原あや子さん(上竹田)ご指導のもと、参加者42名(小学生8名、幼児4名含)が秋晴れのもと4・2kmの行程を2時間強かけて歩きました。



奥に見えるのは桃園

青沼永廣区長から路傍に佇む二十三夜塔、馬頭観音、蚕玉様、道祖神などの謂れを解説いただき、ふだん何気なく眺めて通り過ぎる石碑に思いを馳せながら建部神社、村史跡穴観音、見性寺を経由して公会堂に戻り、昼食会を行いました。子ども等に感想を訊ねると「楽しかった、また来たい」と口々に応じてくれました。

下竹田区 敬老会

11月8日(土)、下竹田公会堂で敬老会「お元気です会」が開かれました。総勢52名が参加し、余興などアトラクションを含め楽しみました。



下竹田、北中常会が拠点の玲心会(代表||百瀬瑞代さん)

を招き、三味線の演奏と一緒に参加者は思い出の歌を気持ちよく合唱していました。

中大池区 敬老会

11月9日(日)、中大池語り部の館にて敬老会が行われました。20名ほどの参加者は、農地改革を行った頃の村の映像を観賞しながら歓談し、フレイル予防のストレッチ運動をして長寿を祝いました。



日用品

11月1日(土)・2日(日)、ミラフード館前にて日用品が開催されました。総合文化祭と同時間催すということ出店数も多く、定番のパンやコーヒー、工芸品の他に、ナシやリンゴ、アクセサリー、カレーライス、陶芸品や松本山雅のグッズなど多彩な商品が並びました。

日用品実行委員会製作の看板「こどもしよてん」でアクセサリーを売っていた山小6年生の高山実央莉さん(下竹田)は「去年のワークショップで教わった水引アクセサリー作りにハマり、お店を出せるくらい制作物ができました」と話していました。



ミスカーノーマ



こどもしよてん

山形村文化祭

ふるさと大ホール・体育館
11月1日(土)・2日(日)

展示発表

第75回山形村総合文化祭が開催され、それぞれの活動の力作が並び、大ホールでの成果を披露しました。

ふるさとの「はちもりの森」が(1日のみ)、ミラ・フード館前で日用市が、それぞれにぎわっていました。



山形保育園



やまご保育園



山形小学校1年生



山形小学校6年生



レインボークラブ



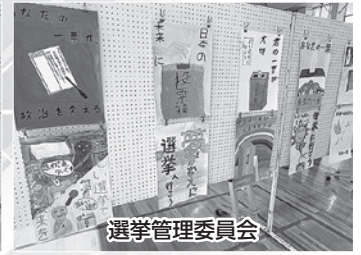
鉢盛中学校 美術部



8団体共働 スマイルみどりん



Yふるさとレンジャー隊



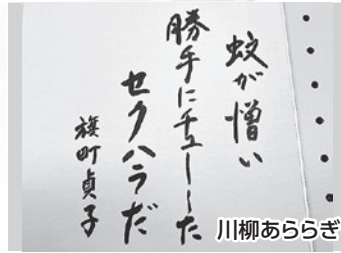
選挙管理委員会



山形村防犯協会



山形村俳句クラブ



勝手にまじった
セクハラだ
旗町貞子
蚊が憎い
川柳あららぎ



山形村史談会



ピアやまがた



活き生き塾



鍾雲書道会



自然保護集団 アクアの会



山形村健康麻雀塾



山形村エコライフを考える会



山形村防災ブース



リサイクルブック(図書館)



キッチンカーまつり

11月1日(土)・2日(日)

トレセン前ロータリーには5台のキッチンカー(1日は4台)が並び、フライドポテトやタコ焼き、ラーメンなどが販売され、訪れた人たちが舌鼓を打っていました。



陽だまりでひと息



並んだキッチンカー

第75回山形総合文化祭

トレーニングセンターふもと
11月1日(土)

芸能発表

11月1日(土)・2日(日)、トレセンにて開催されました。体育館の展示発表にはそれぞれの団体で、この芸能発表では合計19の団体が日頃の練習の成果を発表しました。

また、元気回復室にて鉢盛中学生在に、ロータリー前でキッチンカーまつりが開催され、それぞれ同時開催され、多くのお客さんをおもてなしました。



フラサークル



鉢盛中学校 合唱部



鉢盛中学校 演劇部



山形村民話クラブ 灯籠



ジョイハーモニカ



やまがたウインドアンサンブル



山形小学校 金管バンド



落語 中島 渉



山形村消防団 喇叭隊



クレヨンママ



暁岳流 日本吟道館 山形道場



山形村音楽クラブ



音楽クラブ きたんぼ



たんぼぼコーラス



玲心会



Kid's Dance Box



和太鼓1 総合発表会



和太鼓2 山形小学校わくわくクラブ太鼓でドン!



和太鼓3 彌磨太鼓



和太鼓4 GONNA 小林さん



ましゅまるま



ボール当て(的役が当たりに行く)



コルク銃で射的

はちもりの森

11月1日(土)

トレセン元気回復室にて、綿あめとポップコーンの配布や宝探し、射的など手作りのアトラクションで鉢盛中学生在が小学生以下の子どもたちを楽しませていました。

トレセン入口の

戦後80年企画「戦争の記憶・戦後の記憶」



斉藤 清さん
(下竹田)

青年会・婦人会主体で保育園設立時に尽力、保育園の村立化に寄与・貢献。平成市町村大合併の際、村の自立を決めた首長。昭和4（1929）年4月生、現在96歳。旧制松本工業学校昭和22年3月卒、農業に従事。青年会退会後、青年（会）代表として29歳で村議。山形農協専務理事、代表理事組合長、再び村議となり平成9（1997）年4月～平成16（2004）年3月まで村長2期。

9月号に続き、戦後80周年企画として戦争を体験した村民の方に当時のお話をうかがいました。今号では、斉藤清さんに協力をいただき、旧制松本工業学校入学後から、戦後の村立保育園設立・山形村の全村水道敷設までのお話を伺いました。

聞き書き、文書編集…館報編集部 清原

卒業アルバムを見ながら

（修業年限3年のうち）机の上で勉強した学校生活は、終戦後の1年ほどでね、昭和19年4月入学後、報酬月額80銭の振込先の郵便貯金通帳を作らされ、学校に隣接する富士電機松本工場での勤労隊生活が始まりました。アルバムに貼り付けられたバッジを指さ

し、これを着けて通い、飛行機の（約15cm立法の小さな）発電機を作りました。製品検査場には、松本高女（現蟻ヶ崎高校）生がおりました。同じ勤労動員でも、松本中学（現深志高校）の生徒は、陸軍松本飛行場で滑走路の整地をしたと聞きました。このアルバムも紙屋の息子が同級生に居たおかげで、奇跡的に作るこ

軍事教練と配属将校

との出来た一人一人内容の異なる特別な宝物で、ともかく物不足、運動靴も無く、通学にもわらじ履きが推奨されました。だから、親父が夜なべして作ってくれたわらじを履き、脚にはゲートル（脚絆）を巻くスタイルがかったいでもなくて、一緒に入学した竹田の3人で森口駅まで歩き、松本電気鉄道島々線（現アルピコ交通上高地線）で通学しました。わらじは、2、3日で擦り切れましたが、戦時で敏捷な行動が取れないので草履・下駄履きは禁止でした。

教練は体操の授業のように週2時間あり、徒手教練（銃などの装備を持たずに行う、基礎的な訓練）姿勢を正すことと不動の姿勢、気を付け、敬礼、行進、方向転換といった動作を反復練習をやりました。カチャッカチャツと音を立てサーベルをぶら下げた配属将校は校長と権限が同格か、やたらに威張って。動員

戦争が終わるということば、えらいことだね

先の工場にも来て、何かあるとぐざつて殴って、仕方がない時代でした。出征に該当する年齢は大正15年生まれまでで、同学年で戦地に行った者はおりませんが、志願した同級生が数名おり、戦後復学して通信の訓練や、特別攻撃の訓練ばかりしていたと話してくれました。

「終戦の詔書」（玉音）放送が流れた時は、下竹田の公会堂が陸軍の兵隊さん数十名の宿舎になっていて使えないものですから、（今は墓地だけになつていますが）薬王寺を借りて小学校の同期会をしてました。そこに兵隊が来て「日本が戦争に負けるはずはねえが」と言い、皆は「何言ってるだあ？」という雰囲気でした。それまで社会全体が戦争遂行一本で来てましたから、戦後は上から下までドタバタしてました。しかし、日本社会は初めからのやり直

青年会の大仕事 季節保育所から 村立保育園設立へ

しで、私たちは16歳。少年から若者へのなり始めで、新時代の先兵みたいなものですが、結構いろいろ活動しました。そういう意味では面白かったです。

戦後下竹田青年会（協和会）に入り退会後、農繁期に青年会で子供を預かってくれないかと婦人会に懇願され、会長をしていた百瀬琢夫さんを引っ張り出して季節保育所を下竹田公会堂で始めました。困ったのが子供の世話をする若者2人への報酬です。親から集まる額では賄いきれず、村の助成を頼みたいと青年会で役場へ乗り込みますと、保育Ⅱ（子供の世話）は親の役割なのだから前で、村は保育に欠ける子の面倒を見ると職員が応じ、『保育に欠ける子』という言葉には驚きました。3年のうちに他の地区にも普

今年第二次世界大戦終戦（1945年）から80年目にあたります。館報やまがたでも特集を組むこととしました。戦争当時すでに物心がついていた方は、現在85歳を上回るでしょう。触れたくない、触れられたくない記憶かもしれません。取材にご協力いただいた方がたに、心から感謝申し上げます。

清水寺見学

山形小学校3学年

10月21日(火)に、清水寺見学に行ってきました。一学期に社会の授業で、地域探検を行ったときに、子どもたちから行きたいところとして挙がっていた清水寺に、ついに行くことができました。見学するにあたり、清水寺の管理人である岡上さんと、史談会の上條さんたちに説明を聞きまし



た。門やお堂、仏像などがいつごろ、どのように作られたのかについてなど、資料を見せていただきながらの3年生にも分かりやすい説明でした。見学をした子どもたちからは、「百体観音を見たとき、百体もないと思ったら、百体あってびっくりしました」「圓通門に行ったら、月の形の石があって、面白かったです」「仁王門に仁王像がありました。仁王像の顔は、怒ったような怖い顔でした」といった感想が聞かれました。子どもたちは楽しみながら、約1300年という古い歴史をもつ清水寺について学んでいました。



た。門やお堂、仏像などがいつごろ、どのように作られたのかについてなど、資料を見せていただきながらの3年生にも分かりやすい説明でした。見学をした子どもたちからは、「百体観音を見たとき、百体もないと思ったら、百体あってびっくりしました」「圓通門に行ったら、月の形の石があって、面白かったです」「仁王門に仁王像がありました。仁王像の顔は、怒ったような怖い顔でした」といった感想が聞かれました。子どもたちは楽しみながら、約1300年という古い歴史をもつ清水寺について学んでいました。



みんなの人権 115

“元気な日は、ハガキに○を書いてポストに入れなさい!”～宗福寺「学童集団疎開碑」の前で考えたこと
～絵本「字のないはがき 向田邦子・角田光代」…絵本に学ぶ「人権」⑤



◇上大池・宗福寺の境内には、太平洋戦争末期に集団疎開生活を余儀なくされた幼い子どもたちの「学童集団疎開碑」があります。大戦末期、連合軍による本土空襲の難を逃れるために、都会の初等科3年生～6年生の学童は、地方への集団疎開を余儀なくされたのでした。わが山形村にも、昭和20年5月、東京奥沢国民学校から児童47名が入村してきました。子どもたちは、宝積寺と宗福寺を宿舎にして、山形国民学校（山形小の前身）へ通学しながら、勤労奉仕や家庭勤労で銃後の生活を支えたといえます。（村伝承館ミニ展示資料「山形村にも疎開の子供がやってきた（H29・3）」、優の風景27号、村史談会「郷土172号」参照）◇令和元年に当時の6年生がふるさと学習で作成した「いいとこたくさん山形かるた」には「世…戦時中 疎開してきた 子どもたち（宗福寺・宝積寺）」と詠まれています。◇先日、久しぶりに宗福寺の疎開碑を訪れ、当時の銃後で暮らす子どもたちの様子を想像しながら、一冊の絵本を思い起こしました。それは、「字のないはがき 原作〃向田邦子・文〃角田光代・絵〃西加奈子 2019小学館」。◇戦争が激しくなると田舎へ疎開していく子どもたち。向田家の幼い娘もとうとう疎開することになりました。お父さんは、自宅宛のたぐさんのはがきを娘に渡して、「元気な日は、はがきに○を書いてポストに入れなさい」と言いました。小さな娘は遠足にでも行くようにうれしそうに出発しましたが…。◇原作は、向田邦子が戦争時代の家族との思い出を綴ったエッセイ（眠る盃所収）。絵本に登場する幼い娘は、向田の一番下の妹。疎開先から送られてくるハガキの「○」は、最初のハガキをはみ出すほどの赤丸から徐々に小さな黒丸に。ついに×のハガキも途絶え、心配した母が会いに行くと、妹はシラミだらけの頭で布団部屋に寝かされていました。そんな不憫な娘が無事に帰ってきた時、普段は亭主関白の父親が娘を抱きしめて声を立てて泣き崩れたのでした。この作品は、鉢盛中学校2年生の国語教科書にも収められています。◇親子の日常を無理矢理引き裂かれる悲劇は、我が国の拉致被害をはじめ、ウクライナや中東などでの厳しい戦乱の中でも頻発しています。12月4日から10日までの「世界人権週間」を目前にして、「子どもの権利条約」に謳われる「生きる権利・守られる権利・育つ権利・参加する権利」が今なお遠い理念に留まっていることに忸怩たる思いを抱きながら、疎開碑を後にしました。

（令和7年11月 M.H. 記）

